

学校紹介

シリーズ 5



東桂中学校は、都留市夏狩八四〇番地（海拔五六〇m）に所在しています。

生徒数は、三八六名と、市内三つの中学校のなかでは、いちばん小規模ですが、通学区が旧東桂村



▲東大の赤門を意識して……

一村の範囲内であるため、東桂小学校から東桂中学校へ進学するコースのなかで、先輩、後輩はみられた同じ顔ぶれです。

郷土の人々が誇りとしている篤志家・神戸氏の寄贈になる「愛郷学堂」で汗を流し、体をきたえた六年間の連帯意識は、そのまま中学校生活に結びつきます。

チームプレーでいちばん大切なものは、メンバー相互の連帯ですが、東桂中学校が積極的に取り組んでいる部活をみても、この連帯感がにじみでていきます。

過去、何度となく栄光を勝ち得た野球やバスケット——これらの原動力も、この連帯感の強さから来ているのかも知れません。

現代東桂中学校気質

—学園祭の演劇 舞台裏光景から—

「今の中学生は自己中心的で、他人のことなどおこまいなしだ。などという中傷をよく聞くが、ここ東桂中学校においては、このような声は別世界のこと。

課外活動で全員入部制をとっている部活動——全学年が混在しているから、運営がたいへんむずかしい。

上級生と下級生との調整には、どの学校でも顧問の先生が頭を痛めているらしい。

三年生による演劇 ▲「森は生きている」



その点東桂中学校では、上級生が下の者の面倒をみるべくみるよううだ。

学園祭で演劇を見せてもらった。一年生の演じる「友情のカンニング・ペーパー」——台詞を忘れた生徒が泣き出しそうに戸惑う。

会場は一瞬、しーんと静まるが、冷やかしのやじをかける者は誰もいない。それどころか、みかねた三年生が舞台裏に走り、台詞担当の黒子に、この弱状を打開する方法を指導する光景をみた。

このような「思いやり」「いたわり」の心が、さりげない行動の中に現れてくるところに、東桂中学校の生徒気質をみたような気がした。

仲よしで部活に燃える生徒達

—観察記録から—

東桂中学校長 山本 幸雄

生徒たちが、みんな仲がいい。休み時間の時、清掃活動の時でも生徒たちの様子をみていて、しみじみ感じる。

上級生、下級生、男女の別を問わずほんとに仲がいい。

学園祭前の準備期間などは、男女が互いに持ち味を出し合い、展示物の製作に、合唱練習や演劇の練習に、仲よく楽しく学校生活を送っている。

派手な喧嘩などないし、苦情を持ち込んでくるようなトラブルも



▶オリエンテーリング大会
出発前に説明する校長さん

学園祭前の準備期間などは、男女が互いに持ち味を出し合い、展示物の製作に、合唱練習や演劇の練習に、仲よく楽しく学校生活を送っている。

生徒たちの部活動にかける情熱はすさまじいものがある。

校舎の第二期工事で古い木造校舎はすべて取りこわしてしまつたので、活動場所が不足、大変不自由している。そんな悪条件にもめげず、各々が譲り合い調整し合つて何とか工夫し、少ない機会を有効に使って、体育面、文化面の活動にベストを尽してきた。

支部総体での球技数種目の優勝総合優勝、校内行事ながら学園祭での演劇発表など、若い血の燃えたぎった努力の成果が着実に現れている。

自分が選んだ道、その道をわきめも振らず、弱音も吐かず、忍耐強く歩み続けることは、とても尊いことである。